



大学図書館員に必要なスキル

●
加藤信哉

六年ほど前に、コンピュータに取って代わられる仕事の確率を試算した、オックスフォード大学の研究者の論文が評判になりました。最近では、人工知能（AI）が人間の能力を超える技術的特異点（シンギュラリティ）が注目されています。このような技術環境の変化を反映して、大学図書館員に必要なスキルをどのように捉えているのでしょうか。

昨年、英国で公表された「高等教育スキル調査レポート」*は、図書館・情報専門家協会（CLIP）がコンサルティング会社CB Resourcingと共同で、高等教育機関で働くために現在と将来に必要なとなる重要なスキルを、図書館管理者を対象に調査したものです。

この報告書では、伝統的な八つのスキルである「研究スキル」「主題知識」「スタッフ管理」「教育関連の連絡・調整」「情報リテラシー教育・訓練」「図書館教育・訓練」「コレクション管理」「目録と分類」について「非常に重要である」「重要である」「ふつうに重要」「重要ではない」「全く重要ではない」の五段階での回答を求めています。

かいつまんで結果を紹介すると、現在「非常に

重要である」と回答があった上位の伝統的なスキルは、スタッフの管理（七五%）、教育関連の連絡・調整（六八%）、情報リテラシー教育・訓練（六七%）となっています。

また、回答者が現在重要でかつ将来とも重要と認識している、他のスキルは「プロジェクト管理」「研究支援」「リポジトリ管理」「デジタル・スキル／デジタル・リテラシー」「教育」「データ分析」「AIとの作業」「メタデータ標準の開発」「コーディング・スキル」「ITシステムとの作業経験」の十のスキルです。

さらに、今後五年間「非常に重要である」または「重要である」と回答があった上記の伝統的なスキルは、スタッフ管理（九七%）、研究スキル（九五%）、情報リテラシー教育・訓練（九四%）、教育関連の連絡・調整（八四%）となっています。皆さんはこの調査結果をどのように思われるでしょうか。

* Higher Education Skills Survey Report 2018. CB Resourcing. 2018. 19p.

（かとう しんや／国際教養大学）